

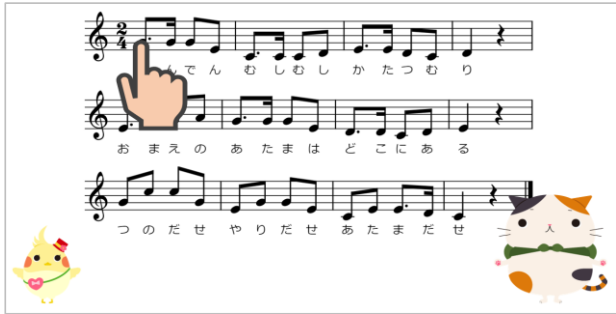


ヤマハデジタル音楽教材「うた授業」 歌唱共通教材の活動案

※ここでは体験版で公開している下記の３曲の歌唱共通教材の活動案を収録しています。

「かたつむり」
「春の小川」
「こいのぼり」

対象学年	1年生	曲名	「かたつむり」	作詞・作曲・編曲者名	文部省唱歌
活動ポイント	1年生の子ども達は、『かたつむり』が好きな子が多いようです。楽曲をかけると、かたつむりのまねをして歌い出す子もいます。 ここでの学びせ方の特徴は、休符に注目することです。そして、拍に合わせて表現することです。1年生のこの時期に楽譜を正確に読むことは難しいのですが、分かりやすい形をしている4分休符を見付けることは意外と簡単です。拍を意識しながら指を動かして、4分休符のところで手拍子をします。そうすることで、休符が見えるようになります。 「休符で手拍子をする」という活動が、後半の4人で動きを考える活動につながります。全員が休符に気付き、それを表現することができるように丁寧に見ていきましょう。				
関連する共通事項	リズム、拍				

No.	活動内容	学習のねらい・ポイント	使用画面・機能	備考
1	「かたつむり」の楽譜を指でなぞりながら歌う デジタル教材の楽譜画面で楽曲の音源を再生させ、児童は自分の教科書の楽譜を指でなぞりながら歌う。曲の速さとピッタリ合うように歌いながら指でなぞることがポイント。 	・楽譜を見ながら歌う 縦書きの歌詞を追いかけるのではなく、楽譜を人差し指で追いかけるようにしましょう。	楽譜画面 楽曲の音源を再生	デジタル教材では「楽譜」のタブをクリックして楽譜画面を開きます。再生ボタンで楽曲の音源を流しながら活動を進めていきましょう。 活動が一通り終わったら、「学習」のタブをクリックして学習画面に戻り、動画の続きを再生して学習を進めてください。 
2	楽譜を指でなぞって歌い、お休み（4分休符）で手拍子をする 1. のように「かたつむり」に合わせて歌いながら楽譜を指でなぞり、4分休符で手拍子をする。まずは1番だけ歌ってみて、何回手をたたいたか数える。 	・休符を意識しながら歌う ここでは「お休み」という言葉を使っていますが、1年生でも視覚的に4分休符をとらえることはできます。それを手拍子で表現することで楽譜に目を向ける習慣をつけていきます。	楽譜画面 色付け機能 （4分休符を選択） 楽曲の音源を再生	デジタル教材では楽譜の画面の右下に「色付け」ボタンがあります。設定画面で4分休符を選ぶと楽譜上の4分休符が色付けされます。この機能を活用して実践してみましょう。 楽譜の色付け設定ボタン  

No.	活動内容	学習のねらい・ポイント	使用画面・機能	備考
3	何回手をたたいたか（＝休符の数）を確認し、2番まで歌えるように練習する 2. の活動で何回手をたたいたか、児童と確認し、手をたたいた回数＝休符の数であることを押さえる。 その上で、2. の活動をしながら2番まで歌えるように練習する。 	次の体を動かす活動がスムーズにできるように、歌がある程度歌えるようになるまで何回か練習しましょう。	楽譜画面 楽曲の音源を再生	
4	音楽に合わせて歌いながら歩き、お休みで手拍子する 「かたつむり」の音楽に合わせて歌いながら歩き、お休みで手拍子する。歩く速度は2拍で1歩。音楽の拍にピッタリ合っているか、休符のタイミングできちんと手拍子ができているかがポイント。 	・拍（2拍で1歩）と休符を意識しながら体を動かす 広い場所の確保が難しい場合は、その場での足踏みでも可能です。 手拍子をするときは、その場で立ち止まって手をたたくように伝ええるとスムーズに活動することができます。	楽譜画面 楽曲の音源を再生	
5	音楽に合わせて歌いながら歩き、お休みで近くの友達とハイタッチする 4. の活動と同じように「かたつむり」の音楽に合わせて歩きながら歌い、休符のところで近くの友達とハイタッチをする。友達と休符のタイミングでピッタリと息を合わせてハイタッチすることがポイント。また、近くに友達がいない場合は無理をせず、その場で手拍子するように指導する。 	・休符で友達とハイタッチする この活動は次の2人組や4人組の活動への準備です。友達と上手に関わるができるように丁寧に支援していきましょう。 広い場所の確保が難しくその場で足踏みをする場合は、隣の友達と手を合わせてみましょう。	楽譜画面 楽曲の音源を再生	

No.	活動内容	学習のねらい・ポイント	使用画面・機能	備考
6	グループに分かれて「かたつむり」の音楽に合ったオリジナルの動きを考える ----- お手本の動画を参考にして、グループ（４人くらい）に分かれて「かたつむり」の音楽に合ったオリジナルの動きを考える。音楽に合わせて動くことと、お休み（４分休符）を分かりやすく伝えることがポイント。  ・おんがくにぴったりあっているかな？ ・「おやすみ」がったわるかな？	・オリジナルの動きをグループで考える 動きを考えるための条件として ・列になって歩く ・歌が始まったら歩き始める といったものも加えると、スムーズに考えられるかもしれません。 基本は４人組でいいでしょう。そして動きもシンプルで構いません。大切なことは音楽にピッタリ合わせて体を動かすこと。「かたつむり」の音楽と一体になることです。	楽譜画面 楽曲の音源を再生	

対象学年	3年生	曲名	「春の小川」	作詞・作曲・編曲者名	文部省唱歌 作詞：高野辰之／作曲：岡野貞一
活動ポイント	『春の小川』は、美しい旋律と歌詞でありながら、構造的で奥が深い楽曲です。子ども達には、この曲の特徴である反復やリズム、曲の構成、終止感、旋律感に楽しみながら触れてほしいものです。 活動にあたって、階名唱は曲の構造を理解するための一つの手段ではありますが、ただ階名で歌うだけでは、子ども達の意欲は継続しにくいものです。ここで紹介する実践のようにゲーム化することで、何度も歌いたいという意欲が生まれ、結果として活動量の確保（繰り返し歌えること）につながります。				
関連する共通事項	旋律、音階、反復、変化				

No.	活動内容	学習のねらい・ポイント	使用画面・機能	備考
1	歌詞の様子を思い浮かべながら歌う お手本の歌を聴いて、歌詞の様子を思い浮かべながら「春の小川」を歌う。 		楽譜画面 楽曲の音源を再生	デジタル教材では「楽譜」のタブをクリックして楽譜画面を開きます。再生ボタンで楽曲の音源を流しながら活動を進めていきましょう。 活動が一通り終わったら、「学習」のタブをクリックして学習画面に戻り、動画の続きを再生して学習を進めてください。 
2	階名で歌う デジタル教材で楽譜に階名表示をして「春の小川」を階名で歌う。音の高さを意識して歌うことがポイント。 	・音の高さを意識しながら階名で歌う 階名は「ドレミ」で表され、音の高さが分かりやすいことを押さえます。 デジタル教材では階名表示の機能がありますが、最終的には階名表示なしで歌えるようになるとういでしょう。	楽譜画面 歌詞／ドレミ切り替え 楽曲の音源を再生	デジタル教材では楽譜の画面で右下の「表示」の「ドレミ」ボタンをクリックすると楽譜上に階名が表示されます。 

No.	活動内容	学習のねらい・ポイント	使用画面・機能	備考
3	4 段の楽譜を見て仲間分けをする デジタル教材の階名表示された「春の小川」の4 段の楽譜を見ながら、仲間分けをする。同じ段とそっくりの段があることがヒント。  楽譜をよく見て、①～④のなかま分けをしよう	・ 階名楽譜で各段を比べて仲間分けをする 楽譜を見ながら 1・2・4 段目と 3 段目の違いに気付かせるようにします。	楽譜画面 歌詞／ドレミ切り替え	
4	仲間分けを確認し、3 段目をどのように歌うか考える 1 段目と 2 段目は段の最後の小節だけが違うそっくりさん、2 段目と 4 段目はまったく同じ、3 段目だけが異なっていることを確認する。その上で 3 段目をどのように歌うかを考える。  3 だん目をどう歌うか、考えてみよう	「階名が同じ」＝「繰り返し」であることをおさえましょ	楽譜画面 歌詞／ドレミ切り替え 楽曲の音源を再生	
5	各段の 4 小節目だけを歌い、各段の最後の音に注目する 動画のお手本に合わせて各段の 4 小節目だけを歌う。そこで最後の音がどうなっているかを確認（1・3 段目が「ミ」、2・4 段目が「ド」）。「ミ」と「ド」のどちらが「終わる感じ」「続く感じ」になっているか考える。  「ミ」と「ド」のどちらが「つづく感じ」か「終わる感じ」か考えてみよう	・ フレーズの最後の音に注目する 各段の最後の音は 1・3 段目が「ミ」、2・4 段目が「ド」であることを押さえましょう。 また、最終音には「終わる感じ（落ち着く感じ）」「続く感じ」の意味合いがあることを比較しながら考えられるようにしましょう。	楽譜画面 歌詞／ドレミ切り替え	

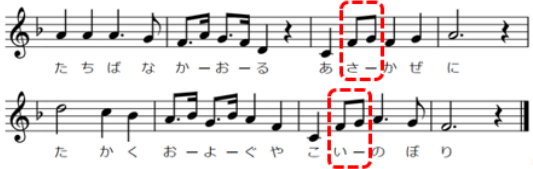
No.	活動内容	学習のねらい・ポイント	使用画面・機能	備考
6	「続く感じ」「終わる感じ」を確認する 「ミ」を抜いて階名で歌う 「ミ」は「続く感じ」になり、「ド」は「終わる感じ」になることを確認する。  「ミ」を抜いて階名で歌う活動。「ミ」は歌わずに手拍子をする。 	 お手本動画あり（「ミ」抜き歌い）	楽譜画面 歌詞／ドレミ切り替え 色付け機能 （「ミ」を選択） 楽曲の音源を再生	デジタル教材では楽譜の画面の右下に「色付け」ボタンがあります。設定画面で「ミ」の音を選ぶと楽譜上の「ミ」の音符のみが色付けされます。この機能を活用して実践してみましょう。  
7	「ド」を抜いて階名で歌う 今度は「ド」を抜いて階名で歌い「ド」のところで手拍子する。「春の小川」では「ド」は低い「ド」と高い「ド」があることに活動を通して気付かせる。 	・低い「ド」と高い「ド」の2つに気付かせる 「ド」は低い「ド」と高い「ド」の2つが出てきます。ここではあえてどちらの「ド」と指定せず、どちらも抜いて歌うとよいでしょう。 また、「ド」や「ミ」以外でも他に抜くとおもしろそうな音はあるか、子ども達と相談しながら活動するといいいでしょう。	楽譜画面 歌詞／ドレミ切り替え 色付け機能 （低い「ド」と高い「ド」を選択） 楽曲の音源を再生	「色付け」ボタンの設定画面で低い「ド」だけではなく高い「ド」も忘れずに選択しましょう。 

No.	活動内容	学習のねらい・ポイント	使用画面・機能	備考
8	階名歌いで分かったことをまとめる 階名にすることによって分かったことや分かりやすくなったことをまとめる。これまで学んできたことを振り返る時間としたい。 	・ 階名で歌うことの意味を押さえる まとめて押さえない音楽的な見方・考え方としては、 ・ 階名は音の高さが分かりやすい ・ 階名にすると繰り返しが分かる（2段目と4段目は全部同じで、1段目と2段目はほぼ同じ） ・ 「ド」は「終わる感じ」がして「ミ」は「続く感じ」がする ・ 同じ「ド」でも音の高さが違うことがある などが挙げられるようにします。 また、最後はもう一度歌詞で歌ってしめくりましょう。	楽譜画面 歌詞／ドレミ切り替え 楽曲の音源を再生	

対象学年	5年生	曲名	「こいのぼり」	作詞・作曲・編曲者名	文部省唱歌
活動ポイント	『こいのぼり』の特徴的なリズムである付点に注目して、学び進めていきます。5年生の発達段階を考えると、楽譜に目を向けるだけでも付点のリズムが多く使われていることに気付くことができます。ここでは、そのリズムを数えることによって、「これだけ多く使われているのか」と実感を伴いながら理解していくことを目指します。また、旋律をあえて8分音符で歌うという活動を位置付けています。付点あり、なしを比較することで、なぜこれだけ付点のリズムが使われているか、子ども達と考えやすくなります。付点を生かした歌唱表現にもつなげていけるように働きかけていきましょう。				
関連する共通事項	リズム、旋律				

No.	活動内容	学習のねらい・ポイント	使用画面・機能	備考
1	歌詞の様子を思いうかべながら歌う まずは楽譜を見ながら「こいのぼり」のお手本の歌を聴く。歌詞の意味を教科書などで確認し、どんな様子を歌っているのか考える。歌詞の様子を思いうかべながら、デジタル教材の音源に合わせて旋律を歌う。 	まずは歌詞の内容を確認しながら、様子を思いうかべて旋律を歌えるようにしましょう。楽曲のタイトルにもなっているこいのぼりの風習についての理解を深められるよう、子ども達と話し合ってみてもよいでしょう。	楽譜画面 楽曲の音源を再生	デジタル教材では「楽譜」のタブをクリックして楽譜画面を開きます。再生ボタンで楽曲の音源を流しながら活動を進めていきましょう。 活動が一通り終わったら、「学習」のタブをクリックして学習画面に戻り、動画の続きを再生して学習を進めてください。 
2	旋律のリズムを手拍子しながら歌い、特徴的なリズムを考える 旋律のリズムを手拍子しながら歌い、この楽曲の特徴的なリズムは何かを考える。楽譜通りに手拍子できているかを確認する。 	・ 旋律のリズムを体で感じる 旋律を歌いながらリズムを手拍子するようにしましょう。3段目と4段目にある8分音符まで付点（タッカ）のリズムになっってしまうように注意しましょう。	楽譜画面 楽曲の音源を再生	

No.	活動内容	学習のねらい・ポイント	使用画面・機能	備考
3	タツカのリズムを数える 2人組で体を動かしてタツカのリズムを表現する 動画のお手本に合わせて付点のリズムのところで「タツカ」と言いながら数を数える。途中で8分音符も出てくることを確認できるとよい。 	・ 付点のリズムを歌いながら数える 解説動画で答えあわせをしますが、「タツカ」と口に出しながら指折り数えてみましょう。数が多いので途中で分からなくなったりしたら、もう一度1番の旋律を流して数える活動をしてみてください。 ・ タツカのリズムを表現する リズムに合わせて体を動かすことにより、この楽曲の特徴的なリズムである「タツカ」のリズムを体験できるようにします。	楽譜画面 楽曲の音源を再生	
4	8分音符の「こいのぼり」と聴き比べる 動画の8分音符のお手本の歌を聴き、タツカのリズムの歌とどんな違いがあったかを話し合う。 	・ 8分音符と付点のリズムの違いを感じる 「タツカ」のリズムと8分音符の「タタ」のリズムとを比較してみることで、違いが明確になると思います。その違いについて子ども達が感じたことを聞いてみましょう。		

No.	活動内容	学習のねらい・ポイント	使用画面・機能	備考
5	タツカのリズムの意味を考えながら「こいのぼり」を歌う 4. の話し合いをふまえて、どうして作曲者はタツカのリズムを使ったのかを考える。タツカのリズムを使った効果を理解することで、今後、他のタツカのリズムを使った楽曲への理解や音楽づくりにおいてのヒントとなるようにしたい。 	・なぜタツカのリズムが使われているのかを考える この楽曲での「タツカ」のリズムの意味について話し合ってみましょう。その意味に気付いた上でどのように歌うかも合わせて考えてみてください。 また、楽曲の中でいくつか「タツカ」ではなく8分音符となっている箇所があります。そこはどのように歌うのがふさわしいか考えてみてください。 	楽譜画面 楽曲の音源を再生	